

2018
おもろ
チャレンジ

米国のトップ病院に挑戦し自分を磨く！

医学部 6年

相馬 逸人

アメリカ合衆国

2018年8月26日-

2018年10月1日



渡航概要と内容

私は1か月間 UC San Diego 附属病院の肝臓内科で病院実習を行った。

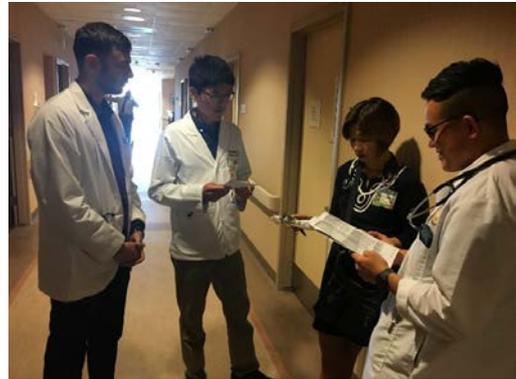
第一週と第二週は主に外来診療の実習を行った。初めは上級医の外来を見学して肝臓内科の分野の医学英語に慣れた後、自分で患者の問診と診察を行って上級医に報告するというを行った。

第三週と第四週では入院患者の診療実習を行った。毎日3人ほどの入院患者を受け持ち、診察、検査、治療計画を立て、上級医に提示して議論して最終的な治療計画を練るということを主に行った。特に第三週では肝臓の移植患者を中心に受け持ったのは肝臓移植がそんなに多くない日本ではなかなか得られない経験だったと思う。

渡航中に起こったトラブルとその対処方法

渡航前にハリケーンの影響で関西国際空港からの航空便が1日延期されてしまった。航空便がキャンセルされても、空港にいるスタッフが対応してくれることはあまりないことを実感した。まず、出発時間の6時間ほど前に、「ハリケーンの影響で Air Asia の航空便を翌日に延期する」という短文メールが一件届いただけで、詳細についての説明は一切なかったため、まず空港にいる Air Asia のスタッフをつかまえて、この情報が正しいものなのかを確認した。自分はトランジットする必要があったため、トランジット後の航空便も新しく取り直さなければならないことになってしまった。航空便予約サイトからカスタマーサービスに電話して事情を説明しなんとかその後の航空便もとることができたが、英語での電話だったため大変苦労した。航空便を予約した時に航空便の遅延やキャンセル時のための保険に入っていたため特に追加料金はかからなかった。

また、京都大学から薦められて加入していた学研保険からも遅延した1日分のホテル代などが出る見通しである。このようなトラブルが起きた時に備えて、保険に入っておくことの大切さを実感した。



渡航を通じて感じたこと・学んだこと

医学カリキュラムの一環として医学生に与えられる課題やプログラムを中心とした日本での病院実習とは異なり、米国では医学生は刻一刻と変化していくその医療現場において医療チームの一員として文字通り働くことが要求される。その時々で変化する現場で求められている自分の役割が何なのかを常に考え模索しながら、自分で判断して医療現場を回していくことが求められた。そのように医療チームの手となり足となって実際に走り回ることには自分にとって初めてのことで、大変新鮮だったと同時に、これまで日本での病院実習では得られたことのない充実さと達成感を毎日感じる事ができて、大変楽しかった。特に入院患者を受け持った後半の2週間は朝5時起きることが多く、大変時間的体力的にきつかったが、しんどさよりも責任感を持ちながら自分の仕事を全うする楽しさの方が上回った。この1か月でより一層早く一人前の医師になって働きたいと思うようになった。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

この1か月で英語力が向上したことと、アメリカの病院で働くことの雰囲気を感じる事ができた。ここで培った英語力は将来的に必ず役に立つと思う。アメリカの病院で働くことの雰囲気を感じて、これまで以上にキャリアの見通しが立った。

また、日本にいと、「アメリカではすでに～されているのに対して日本は遅れている」というようにアメリカで行われていることはすべて正しくて進んでいるかのような議論をよく耳にする。決してアメリカがすべて正しい、進んでいるわけではなく、数多くの日本の良いところに気

づけたのもよかったと思っている。

■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

留学に少しでも興味のある学生は本プログラムに応募することを強く薦める。このような奨学金制度が設けられている京都大学に在学する私たちは本当に恵まれていると思うし、そのような機会を是非利用して学生のうちから視野を広げることは将来的にとても自分のためになると思う。

また、留学でできた人間関係やかけがえのない思い出も大きな財産になると思う。

本プログラムに応募する際に志望動機を書かなければならないが、そこで改めて自分は将来何をしたいのか、自分の描く理想は何なのかを自分なりによく考えるきっかけにもなるし、それを文字に起こすことで初めて自分の気持ちに気づくこともある。ぼんやりとしか抱いていなかった考えが整理されるため、必ずしも合格しなくても応募すること自体にも意義があると思う。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*宿泊費

*現地調査費・交通費

*食費

*医療過誤保険、海外旅行保険、予防接種 など